ILC グローバル・アライアンス

年次総会議事録 2011

ライデンアカデミー健康長寿センター会議室

Leyden, Netherlands

September 29, 30, 2011

【 出 席 者 一 覧 】

■共同議長

Dr. Monica Ferreira（南アフリカ）

Baroness Sally Greengross（英国）

■投票メンバー

Linda Fried (アメリカ)

Francoise Forette（フランス）

Rosy Pereyra（ドミニカ共和国）

Monica Ferreira（南アフリカ）

Sara Caramel （イスラエル）

Iva Holmerova（チェコ）

Masako Osako（事務局）

Fumio Isobe（日本）

Sally Greengross（イギリス）

Jayant Umaranikar（インド）

Lia Daichiman（アルゼンチン）

Susan Concordo （シンガポール）

Jacques Schraven （オランダ）

■非投票メンバー

Jack Rowe（アメリカ）

Yoko Shido（日本）

Marie-Anne Brieu（フランス）

Marieke Van del Waal（オランダ）

Axel Borsch-Supan（アメリカ）

Shinichi Ogami（日本）

Noreen Siba（イギリス）

■**Global Coalition on Aging** メンバー（**29** 日出席）

Marc van Weede

Melissa Gong Mitchell

9 月 29 日（木）

ILC グローバル・アライアンス国際シンポジウム

◆◇虚弱高齢者の統合ケアについて－オランダと世界の視点◆◇

（9：30～16：00）

＜プログラム＞

1. ILC Robert Butler Memorial Lecture
   Prof. Rudi Westendorp

2. The frail elderly in the Netherlands
   Prof. Paul Schnabel

3. Integrated service in the context of long term care
   Dr. Henk Nies

4. Dutch national Program for elderly care
   Prof. Betty Meyboom

5. Worldwide trends and development on integrated care for frail older people
   Baroness Sally Greengross

9 月 29 日（木）

ILC オランダ理事長の開会挨拶で始まったシンポジウムの最初は、ライデン大学健康長寿センター長で、ILC オランダ理事でもある Rudi Westendorp 博士が「ロバート・バトラー・メモリアルレクチャー」として、バトラー博士の業績をたたえ、その意思を継ぐべく取り組んでいる研究発表を行った。

続いてオランダの研究者 3 名により、標題のテーマに従ってオランダの現状と課題の分析、今後の政策展開にあたっての方針などが解説された。

最後に ILC グローバル・アライアンス各国の統合ケアの実態と課題が、グリーングロス共同理事長から紹介された。日本は「地域包括ケアセンター」を中心にした多面的な介護の基本方針と、その現実の運営についての報告を行った。

質疑応答では医療保険と介護保険の財源のあり方について、磯部企画運営委員が解説した。

9 月 29 日（木）

◆◇Global Coalition on Aging とのミーティング◇◆

（16：30～18：00）

フォレットフランス理事長の司会で始まったミーティングでは、GCA から参加したメンバーによるプレゼンテーションに続き、グリーングロスイギリス理事長による ILC と GCA の関係強化に向けた意思が表明された。
他のメンバーからも積極的な発言がなされ、結論は翌日に持ち越された。
その後 GCA のスポンサーシップによるビュッフェ形式の夕食となった。

9 月 30 日（金）

◆◇2011 年度ＩＬＣ年次総会◇◆

（9：00～17：00）

➢午前の部（9：00～12：45）

1．　開会の辞：フェレイラ南ア理事長

共同理事長のフェレイラ南ア理事長から、年次総会への参加歓迎の挨拶と欠席者（ツァオシンガポール理事長）についての説明があった。

2．　2010 年南ア年次総会議事録

ケープタウン会議の議事録が、満場一致で承認された。

3.　事務局からの事業･決算報告

昨年度の経理状況と活動状況などが報告され、満場一致で承認された。
なお、事務局長処遇についての確認がなされた。

4．　今後のメンバーシップのあり方など

グリーングロス共同理事長からは、アライアンス加盟国が増え続けることを踏まえ、今後の組織形態について議論する必要性が提案された。地域分割や年次総会開催頻度、準会員制構想などが示され、今後検討していくこととなった。なおシュラバン理事長からは、ILC 事業の発展や効率のよい運営、財源問題などについての問題提起がなされた。

また、前日のミーティングを経て GCA との関係について再度議論がなされ、今後具体的なプロジェクトなどの提案を受けたところで、連携方法などについて検討することとなった。

9 月 30 日（金）

５．新規加盟問題

■中国

中国の人民大学からの加盟申請に関して、メンバーによる意見交換がなされた後、年次総会に参加できなかった申請者 Du Peng 教授に対する、電話インタビューが実施された。

メンバーのインド、フランス、シンガポール、ドミニカなどが質問を行い、そのすべてに対して Du Peng 博士は誠実に回答をした。

その後、全員一致で中国の申請を採択した。

■ブラジル

次いで加盟申請国ブラジルに対する意見交換がなされた。

やはり参加できなかった申請者の Alex Kalache 博士に対する電話インタビューでは、フランス、ドミニカ、インド、南ア、シンガポールなどが質問を行った。

Alex Kalache 博士は、長年 WHO の高齢担当部長の職にあり、ILC の多くのメンバーとも面識があるため、インタビューは和やかなトーンで行われた。

その後の討議を経て、全員一致でブラジルの加盟が認められた。

9 月 30 日（金）

➢午後の部(13:45～17:00)

6． 各国活動報告

12 カ国の活動報告はアルファベット順で行われ、午前中にアルゼンチン、チェコ、ドミニカが発表し、午後は、フランス、インド、イスラエル、日本、シンガポール、南アフリカ、オランダ、イギリス、アメリカが発表した。
最後に発表したコロンビア大学リンダ・フリード学部長からは、アメリカの新理事長選出について報告がなされた。
日本は ILC 加盟 6 カ国及び韓国、オーストラリアで行った、共同研究「在宅介護・医療と看取りに関する国際比較調査」や、Profile of Older Japanese への言及とともに、大震災後の各国からの励ましへのお礼を述べ、改めて長寿先進国日本の世界に対する役割の自覚を表明した。

7．各委員会報告
（財源検討委員会、ウェブサイト委員会、国際渉外委員会）

オランダからは財政計画について、イギリスからはウェブサイトの運営についての状況説明と提言がなされた。アルゼンチンは国連の高齢者の人権に関するワーキンググループへの参加や、その他の取り組みに関する報告を行った。

9 月 30 日（金）

8.　今後の共同研究について

昨年のケープタウンにおいて、以下の 4 プロジェクトが提案されていた。

➢Active & Healthy Aging	日本･フランス
➢Advocacy & Platform Building	イギリス･アルゼンチン
➢Caregiving	インド･ドミニカ共和国･イスラエル
➢ Dementia	南アフリカ

南アフリカの dementia は、IFA との連携で、ジャーナルとして刊行された。また各国理事長が世界的な会合で発表したり、役割を果たしていることが報告された。

インドを中心としたチームは、介護の国際比較の重要性を述べた。

Active & Healthy Aging を担当した日本・フランスチームは、両国共同案として「働く高齢者の健康についての国際比較調査」をフォレット理事長から提案した。イスラエルとドミニカなどからも調査への興味が示され、今後アライアンスの共同研究にしていくことで合意が得られた。

9.　共同プロジェクト報告

日本からは現在行っている「在宅介護・医療と看取りに関する国際比較研究」の成果の一部を報告するとともに、協力各国（フランス、イギリス、イスラエル、オランダ、チェコ）への謝意を表明した。また今後の発展計画案も示した。

9 月 30 日（金）

10.　初代共同理事長任期終了に伴う謝意と退任挨拶

故ロバート・バトラー博士と森岡顧問の共同理事長としての 3 年の任期が、本総会で終了することを受け、感謝状が用意された。

森岡顧問への感謝状はフォレット理事長が読み上げ、磯部企画運営委員に手渡された。

磯部委員は森岡顧問の挨拶を代読し、書状を各国理事長に配布した。

故バトラー博士への追悼感謝状はペレイラ理事長から、リンダ・フリード学部長に手渡された。

なお、森岡顧問には名誉理事長への就任要請が、全会一致で採択された。

11.　今後の総会開催と国際シンポジウム

2012 年は 5 月の IFA 総会に合わせてチェコでの開催が決定しており、シンポジウムのテーマは「Active Aging」（仮題）的なものにすることを、総意で決めた。

2013 年はシンガポールが立候補し、承認された。

（以上）